

「チャレンジド ( Challenged )」の意味するところに？

当HP「『みんなの夏祭りチャレンジ・ド・2005』に参加して(「雑学」バックナンバー - 随想等関係 ( ) P 2005. 8.06. : 参照」)の中の「チャレンジド」について、問い合わせがあったので色々検索してみた。

障害を「チャレンジド ( Challenged )」と使ってるグループによれば、「仕事を持ち、積極的に社会に参加していこうという前向きな障害者のこと。『障害を持つ人』を表す新しい英語『the challenged』を語源とし、障害をマイナスとのみ捉えるのではなく、障害を持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こう、という想いを込め」て使われているよう。

就労支援がまだまだ不十分で、働けるのに働く機会を与えられていない障害者は多いのは確かで、こうした運動は続けて欲しいと思う。

「チャレンジド」という受動態で使うのは、「神様から挑戦すべきことを与えられた人達という意味」もあるとか。やはりキリスト教圏の国で使われ出した表現のよう。

我々の中にも、はっぱをかけられる、叱咤激励される、頑張れと励まされることに、ウマが合わない人も現に多いと思う。

障害があることで、なぜ challenge ! と励まされ、challenged と云われなくてはならないのだろうか？

みんながみんなチャレンジしなくてもいいのでないかとも思う。

People first language. ( 障害者である前に、一人の人間 ) の考え方に照らすと、the challenged は the disabled と同様、特別な人々という意味が生じ、好ましい表現とは言い難いと思う。ありのままでもいいのでないかと思う。

障害がある、なしに関係なく、みんながそれなりの事情を抱えながらも自らの人生にチャレンジしていると思う。

自分は世間的にいう「無宗教」だが、神の前ではみんな平等であり、あえて障害者だけが神から何か使命を授かっている訳でないと思う。みんなそれぞれの使命を授かって生きているとも云えるのでないだろうか。

「使命」とは、「『命』をどう『使』うか」ということだと思し、そうした意味ではみんなが「自らの使命」があるように思う。それが「生きている」ことであり、「自らの事情を抱えながらも、自らの『命』を周りの命と互いに輔け合いながら、自らの使命のためにどう『運』ぶか」が、「運命」ということであり、また「生きて行く」ということでないだろうか。

( 2005 年 8 月 11 日 記 )